

公益社団法人 日本水産学会
令和 7 年度第 5 回理事会議事録

1 開催された日時 令和 7 年 9 月 21 日（土）13 時 00 分～15 時 50 分

2 開催された場所 日本水産学会事務局（東京都港区港南 4-5-7）

3 理事総数及び定足数

総数 20 名、定足数 11 名

4 出席理事総数 18 名

（Web 会議システムによる出席）

東海 正、征矢野 清、河村知彦、片山知史、阪倉良孝、栗田 豊、
岡田 茂、大久保範聰、木村 稔、古川史也、マーシー・ワイルダー、
都木靖彰（第 10 号議案審議中 14 時 23 分着席）、平井俊朗（第 1 号議
案審議中 13 時 07 分着席）、生田和正、河村功一、益田玲爾、足立真佐
雄、荒川 修

5 出席監事

（Web 会議システムによる出席）

佐藤秀一、良永知義、野澤知世

6 出席幹事

（Web 会議システムによる出席）

塩出大輔、山本洋嗣、長澤一衛、寺原 猛、岩田繁英

7 議 案

決議事項

第 1 号議案 「定款の変更案」の件

第 2 号議案 「定款の変更に伴う代議員選出規程の新設及びその他規程の一部
改正」の件

第 3 号議案 「投稿規程の一部改正」の件

第 4 号議案 「令和 7 年度秋季大会の日程変更」の件

第 5 号議案 「令和 8 年度春季大会運営委託業者」の件

第 6 号議案 「令和 8 年度春季大会募金目論見書」の件

第 7 号議案 「企画広報委員会運営規程の一部改正」の件

第 8 号議案 「日本水産学会春季及び秋季大会のポスター発表における学生会
員の優秀ポスター発表賞の選考に関する申し合わせ薦」の件

第 9 号議案 「2026 年度日本農学賞の推薦」の件

第 10 号議案 「BCP（事業継続計画）の策定に向けた緊急連絡網の整備につい
て」の件

第 11 号議案 「日本水産学会誌企画記事の広報（冊子作成）」の件

第 12 号議案 「全国水産試験場長会との合同シンポジウムの開催について」の
件

第 13 号議案 「協賛依頼」の件

第 14 号議案 「入会承認」の件

報告事項

- ① 第4回理事会以降の職務遂行の状況
- ② その他確認事項

9 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

東海会長が定足数の充足及びWeb会議用装置からなるWeb会議システムにより、出席者の音声、映像が同時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同等に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款第29条に基づき、東海会長が議長となり、本会議の成立及びWeb会議システムを用いて開催する旨宣言し、議案の審議に移った。

(決議事項)

第1号議案 「定款の変更案」の件

征矢野法人体制見直し特別委員会担当理事より代議員制の導入に必要な定款の変更案について、委員会における議論の概略説明があった後、片山総務担当理事より、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。今後、この定款の変更案を持って内閣府公益等認定委員会に相談するとともに、会員から意見聴取をもとに修正を検討し、来年度の総会に諮る予定であることを確認した。

本議案について以下の質疑応答があった。

栗田理事「代議員の任期はいつからいつまでなのか。」

東海会長「代議員の任期は、代議員選挙における投票の後、本人の了承を得て選出された時点から、2年後の代議員選挙の終了までである。」

良永監事「定款変更について、いずれかの段階で会員に説明する、あるいはパブリックコメント等で会員から意見収集を行う予定はあるか？」

東海会長「11月の理事会で定款変更案が可決された段階において、パブリックコメント等で会員から意見聴取を行い、その後の春季大会にて説明会を行うことを検討している。」

岡田理事「第12条7に名誉会員の承認が追加されているが、どういった経緯で追加されたのか？」

東海会長「名誉会員については従来、社員総会での承認を求めていたものの、定款に規定されていなかったため、今回改めて明確に定めた。」

第2号議案 「定款の変更に伴う代議員選出規程の新設及びその他規程の一部改正」の件

片山総務担当理事より、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

良永監事「代議員の責務についての記載はあるのか？」

東海会長「代議員の責務に関しては、社員総会における議決権を有し、その行使に伴う責任を負うという理解である。また、社員総会に出席しない場合でも、議決権行使書や委任状によって意思を表明することが可能であり、この点において従来の正会員としての社員と相違はない。」

東海会長「今後も定款変更等の審議を進める中で、必要に応じて本案についても変更する可能性がある。また、支部幹事という表現が用いられている規程の一部改正の審議は、11月または2月の理事会において行う見込みであり、その際に必要が生じた場合には、代議員選出規程や選挙管理委員会規程の一部改正についても改めて審議に付される可能性がある。なお、これらの定款の変更に伴う規程の一部改正は、来年度の総会において定款の変更が認められた後に、施行されるものである。」

第3号議案 「投稿規程の一部改正」の件（別紙1）

岡田編集担当理事より原案について説明があった。投稿規程においてコレスポンディングオーサーの日本語訳を「連絡著者」に統一する。また、連絡著者の後に、(corresponding author)を加筆する修正案について説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第4号議案 「令和7年度秋季大会の日程変更」の件

足立中国・四国支部担当理事から、原案について説明があった。令和7年度秋季大会について、9月27日にシンポジウム等の開催がないため、会期を1日短縮する。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第5号議案 「令和8年度春季大会運営委託業者」の件

生田関東支部担当理事の求めにより、岡田理事から令和8年度春季大会運営委託業者について、複数の委託業者に対して見積依頼及びヒアリングを行った結果、運営委託業者をトーヨー企画株式会社・株式会社アルターとした旨の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第6号議案 「令和8年度春季大会募金目論見書」の件

生田関東支部担当理事の求めにより、岡田理事より原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第7号議案 「企画広報委員会運営規程の一部改正」の件（別紙2）

片山総務担当理事の求めにより、山本企画広報委員会委員長が原案について説明した。審議の結果、出席理事全員一致で別紙のとおり可決した。

第8号議案 「日本水産学会春季及び秋季大会のポスター発表における学生会員の優秀ポスター発表賞の選考に関する申し合わせ」の件

片山総務担当理事の求めにより、山本企画広報委員会委員長が原案について説明した。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

本議案について以下の質疑応答があった。

片山理事「口頭発表賞については、会場が分散しているため、賞の設定は難しいと考えられるが、委員会では検討されているか。」

山本委員長「ポスター発表賞の効果・反響を精査しつつ、口頭発表賞の設定につ

いても引き続き、検討していく予定である。」

岡田理事「ポスター発表は現状においても数が多く、賞を設定することで学生の希望者がさらに増加する可能性があるため、会場の収容人数等を考慮し、進めていただきたい。」

山本委員長「過去2年の学生ポスター発表数は70～80件程度であるが、次回の春季大会の応募数を見て、適切に検討していきたい。」

征矢野理事「学生にとって、賞の受賞は奨学金の免除などに有益であるため、ポスター賞のノミネート数が増加する可能性がある。学会運営の負担になりすぎないようにうまく調整していただきたい。」

東海会長「今回、賞を設定することによりポスター発表総数がどのように推移するかは予測できないが、学生の発表を優先させるなどの対応を検討していく必要がある。」

第9号議案 「2026年度日本農学賞の推薦」の件

益田学会賞担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第10号議案 「BCP（事業継続計画）の策定に向けた緊急連絡網の整備について」の件

東海会長から、BCP策定に向けた考え方及び緊急連絡網の整備について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第11号議案 「日本水産学会誌企画記事の広報（冊子作成）」の件

東海会長の求めにより、山本企画広報委員会委員長が原案について説明した。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決された。

本議案について以下の質疑応答があった。

東海会長「支部大会や例会等で配布するために本冊子体の増刷は可能か。」

山本委員長「増刷は可能である。」

東海会長「本案は毎年新しい記事を加えてバージョンアップしていくのか。」

山本委員長「年度ごとに発行された1巻6号分の記事の中から企画記事を厳選し、総ページ数50ページ程度を目安に毎年新たに編集・作成し、春季大会で配布していく予定である。」

第12号議案 「全国水産試験場長会との合同シンポジウムの開催について」の件

東海会長から、原案の説明があった。また、木村理事より現在の準備状況についての説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

第13号議案 「協賛依頼」の件

片山総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の協賛を可決した。

① 日本航海学会第153回秋季講演会・研究会

主 催 日本航海学会

協 賛 日本船舶海洋工学会 他37団体

日 程 令和7年10月18日・19日

場 所 富山県民会館（富山県富山市）

希 望 協賛

負担金 なし

第 14 号議案 「入会承認」の件

片山総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案どおり可決した。

(報告事項)

① 第 4 回理事会以降の職務執行状況

・会長

東海会長から、以下の報告があった。

- 1) 水産・海洋科学的研究連絡協議会については、近く同協議会が開催され、各種シンポジウムの情報が共有される予定である。
- 2) 全国水産試験場長会の全国大会が 11 月 18 日に香川県で開催される予定である。

・庶務関係

片山総務担当理事から、以下の協賛及び後援について、共催、協賛、後援の取り扱い申し合わせ 3)を適用した旨の報告があった。また、東海会長より、5 月 8 日の総会によって承認された定款の変更に関する事務手続きについて、行政書士を通じて無事に登記が終了したため、それに基づき定款変更届を内閣府公益認定等委員会事務局に提出した旨の報告があった。

① 第 19 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム

主 催 日本電磁波エネルギー応用学会

協 賛 IEEE MTT-S Japan/Kansai Chapter 他 12 団体

日 程 令和 7 年 8 月 28 日

場 所 甲南大学平生記念セミナーハウス・記念館（兵庫県神戸市）

希 望 協賛

負担金 なし

② 第 14 回海中海底工学フォーラム・ZERO

主 催 海中海底工学フォーラム・ZERO 運営委員会

協 賛 日本船舶海洋工学会 他 7 団体

日 程 令和 7 年 10 月 17 日

場 所 東京大学大気海洋研究所講堂（千葉県柏市）

希 望 協賛

負担金 なし

③ 第 63 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会

後 援 応用物理学会 他 67 学協会

日 程 令和 8 年 7 月 8 日～10 日

場 所 日本科学未来館（東京都江東区）

希 望 後援

負担金 なし

・企画広報関係

片山担当理事の求めにより、山本企画広報委員会委員長から、令和 7 年 9 月 3 日に令和 7 年度第 4 回企画広報委員会を開催した旨の報告があった。

・財務関係

大久保担当理事 特になし

・編集関係

岡田担当理事から、海外エディターを含め 8 月 25 日に編集委員会懇談会を開催したとの報告があった。懇談会において、海外エディターからは、*Fisheries Science* はインパクトファクターが低く、*Journal quantiles* では Q3 に分類されていることについて改めて言及があった。また、OA の APC が高額で学生は負担できないため、出版社について必ずしも Springer 等の大手にこだわる必要はないのではないかとの意見があった。さらに、*Fisheries Science* という名称には Aquaculture の概念が含まれておらず、それに関連する論文を取りこぼしている可能性があるため、認知度を高めるためのプロモーションが必要であるとの意見が出された。今後、養殖担当の副編集委員長の増員も含め委員会で検討を進めていく。一方、出版社からは、著者はオープンアクセスのために APC を支払っているにもかかわらず、学会が掲載料を徴収するのは二重払いとなるため中止してほしいとの要請があった。

・学会賞関係

益田担当理事より、9 月 2 日に学会賞選考委員会を開催し日本水産学会賞はじめ各賞の受賞候補者を選考した旨の報告があった。次回理事会において、選考結果および総評を報告する予定である。

・シンポジウム関係

征矢野担当理事より、次回理事会においてシンポジウム企画の申請期限をより短期間で可能にするよう規程変更を諮りたい旨の報告があった。また、広島での秋季大会ではミニシンポジウムの開催が 1 件のみと少なく、今後どのように増やしていくかを委員会で検討していく旨が報告された。

本報告について、以下の意見があった。

東海会長 「シンポジウム企画委員会で認められたシンポジウムについては、

水産学会からそのシンポジウム企画に対してわずかながら補助を行なうことが可能となっているため、理事にも開催の検討や周囲への呼びかけをお願いしたい。」

・出版関係

平井担当理事 特になし

・水産技術誌監修関係

河村担当理事 特になし

・国際交流関係

大久保担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 7 月に開催されたイギリス諸島水産学会に黒木真里会員にご出席いただいた。
また 8 月にアメリカ水産学会には大越和加副会長にご出席いただいた。
- 2) 台湾水産学会より、本会の八木信行会員を通じて交流協定の締結を前提とした交流を希望する旨の申し出があった。併せて、来年 1 月に開催される台湾

水産学会主催大会への東海会長の出席を依頼する旨の要請があった。まずは八木会員が同大会に参加し、交流を開始することとなった。今後、来賓の招聘や本会からの派遣も検討し、交流を重ねた上で協定の締結を検討していくこととした。

- 3) 世界水産学協議会（WCFS）からの連絡として、2028年のWFCを中国で開催する予定であるが、中国政府の開催許可が必要であるため、各国水産学会から参加予定者情報の提供を求められた。現時点では参加予定者は確定していないため、東海会長、大久保理事、古川理事の情報を先方に送付した。

本報告について以下の意見交換があった。

東海会長「今後の台湾水産学会との交流については、次年度春季大会に台湾水産学会から1名を招聘するか否かを、国際交流委員会で検討していただきたい。」

大久保理事「来週の委員会で検討する。」

・水産教育関係

荒川担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 水産教育推進委員会の2人目の副委員長として、東京海洋大学の耿婕婷委員が就任することとなった。
- 2) 第2回水産教育推進委員会は、広島大会でのハイブリッド開催を予定していたが、大きな議題がなかったため、メール会議で実施することとなった。

・水産政策関係

栗田担当理事から、水産政策委員会は9月26日に開催する旨の報告があった。

・漁業・資源管理関係

栗田担当理事から、11月17日・18日に漁獲データ解析ワークショップが開催され、日本水産工学会および日本水産学会漁業懇話会が後援となる旨の報告があった。

・水産利用関係

岡田担当理事 特になし

・水産増殖関係

阪倉担当理事から、9月24日に委員会および懇談会が開催される旨報告があった。

・水圈環境関係

足立担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 沿岸環境関連学会連絡協議会のシンポジウム「有明海異変25周年シンポジウム 有明海異変の原因・出口はどこまでわかったのか?」が令和7年8月23日に開催され、90名以上の参加があり活発な意見交換が行われた。
- 2) 10月上旬に第2回委員会をオンライン開催する予定である。

・男女共同参画関係

ワイルダー担当理事から、秋季大会期間中の令和7年9月25日に広島大学にてランチョンセミナー「ダイバーシティ&インクルージョンの基本的な考え方」が開催される旨の報告があった。

・水産学若手の会関係

大久保担当理事から以下の報告があった。

- 1) 秋季大会においては、若手の会主催シンポジウム、ナイトポスターセッション、学部学生の参加費無料キャンペーンを実施する。
- 2) 若手の会の学生委員を中心に半日のセミナーを企画しており、著名な研究者を招聘して講演を行っていただく予定である旨の報告があった。

本報告について、以下の意見があった。

東海会長「申し合わせ等を作成し、方針を整理した上で進めていただきたい。若手の企画は学会としても積極的に支援したい。」

・社会連携関係

東海会長から、全国水産試験場長会との合同シンポジウムについて、及び 11 月に同場長会全国大会が開催される旨の報告があった。

・将来計画関係

征矢野担当理事 特になし

・北海道支部、地域連携関係

都木担当理事から以下の報告があった。

- 1) 令和 7 年度北海道支部大会は、12 月 19 日・20 日に網走において開催する。会場は 1 日目が東京農業大学の北海道キャンパス、2 日目はオホーツク文化交流センターで開催する予定である。
- 2) 令和 9 年度日本水産学会秋季大会は北海道大学水産学部が主催する予定である。

・東北支部、地域連携関係

平井担当理事から、支部大会が 10 月 25 日・26 日に福島県水産海洋研究センターの主催で開催される旨の報告があった。

・関東支部、地域連携関係

生田担当理事から以下の報告があった。

- 1) 9 月 11 日に支部幹事会をメール会議で行った。
- 2) 幹事選挙が本年度中に実施される予定である。
- 3) 令和 8 年度日本水産学会春季大会の準備は順調に進んでいる。

・中部支部、地域連携関係

河村担当理事から以下の報告があった。

- 1) 令和 7 年度中部支部大会およびシンポジウムは、11 月 30 日に福井県立大学の主催で開催される。
- 2) オンラインでの幹事選挙を 9 月 30 日締め切りで実施している。

・近畿支部、地域連携関係

益田担当理事から、支部大会が 12 月 14 日に京都大学農学部で開催される旨の報告があった。

・中国・四国支部、地域連携関係

足立担当理事から、以下の報告があった。

- 1) 令和 7 年度日本水産学会秋季大会が 9 月 24 日～26 日に広島大学東広島キャンパスで開催される。

2) オンラインでの幹事選挙を 9 月 30 日締め切りで実施している。

・九州支部、地域連携関係

荒川担当理事から、以下の報告があった。

1) 7 月 26 日に長崎大学水産学部で九州支部若手の会を開催し、42 名が参加した。招待講演 3 題とポスター発表 35 題に加え、学生と社会人の交流も行われ、進路選択や共同研究、友人作りに資する有意義な場となった。

2) 本年度の九州支部総会・大会・例会は、12 月 6 日・7 日の両日、長崎大学水産学部で開催する。6 日には幹事会、支部総会、一般研究発表、会員講演会を実施し、7 日には高校生による研究発表、表彰式、さらに「九州から食の未来を考える」をテーマとするシンポジウムを予定している。本シンポジウムの情報は 10 月上旬には支部ウェブページで案内を掲載する予定である。

本報告について、以下の意見があった。

東海会長「支部若手の会については、新しい試みとして意義があると考えられるため、日本水誌の支部ページにおいて詳細な報告をお願いしたい。」

荒川理事「その旨、支部長に依頼する。」

東海会長「シンポジウムについては、詳細が決定次第、学会ホームページへの掲載もお願いしたい。」

荒川理事「そのようにしたい。」

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

阪倉担当理事から、福井県立大学の有瀧先生および東京海洋大学の岡崎先生から英文書籍の企画をいただき、シュプリンガー社のマーケティング審査を経て出版が認められた旨の報告があった。現在は本学会と出版社との契約締結段階にあり、各巻の謝金を出版契約時点の為替レートに基づきユーロ建てで設定し、学会側が外国通貨口座を開設しそこに入金することについて、シュプリンガー社の了承を得た。

・財務検討委員会（特別委員会）

河村担当理事 特になし

・FS 誌 OA 検討委員会（特別委員会）

岡田担当理事 特になし

・法人の体制見直し委員会（特別委員会）

征矢野担当理事から、次回理事会までに、定款変更に関する内閣府の回答を踏まえ修正作業を行う旨の報告があった。

② その他確認事項

(1) 次回の理事会について

片山総務担当理事から、次回の理事会は令和 7 年 11 月 29 日（土）13 時から Web 会議システムにて開催するとの説明があった。

以上をもって Web 会議システムを用いた会議は、終始異状なく議案の審議等を終了したので、15 時 50 分、議長は閉会を宣言し、解散した。

以上、この議事録が正確であることを証するため、出席した議長（代表理事）及び監事は記名押印する。

令和 7 年 9 月 30 日

公益社団法人 日本水産学会
議長 会長（代表理事）

監事

監事

監事